

2016 年度都市計画実習

最終レポート

PEDESTOP

~ペデの時間はゆっくり流れる~

2016 年 7 月 1 日（金）

生活安全環境班

真田龍（班長）

高瀬陸（副班長）

西谷麟（副班長）

田邊高德（DB）

中澤ゆかり（DB）

落合遥（印刷）

田中皓大（印刷）

高橋佑典（渉外）

水谷功輝（渉外）

担当教官：吉野邦彦 TA:岡部寛

目次

第1章 序論

- 1.1 研究のフロー
- 1.2 背景目的

第2章 本論

- 2.1 既存研究
- 2.2 実態調査
 - 2.2.1 つくばセンター周辺未利用地調査
 - 2.2.2 ペDESTロリアンの交通量調査
 - 2.2.3 ヒアリング調査
 - 2.2.4 ペDESTロリアンの未利用空間調査
- 2.3 アンケート調査
 - 2.3.1 第1次アンケート調査
 - 2.3.2 第2次アンケート調査

第3章 提案

- 3.1 提案の概要
- 3.2 具体的な提案
 - 3.2.1 メディカルセンターからセンター広場まで
 - 3.2.2 センター広場から二宮公園まで
 - 3.2.3 二の宮公園から赤塚公園まで
- 3.3 考察

参考文献

謝辞

補足資料

- アンケート用紙

図表リスト

表 2.1 ペDESTロリアンの年齢別交通量

表 2.2 ペDESTロリアンの場所別交通量

図 1.1 フローチャート

図 1.2 つくばフェスティバルの様子

図 1.3 駅から少し離れたペDESTロリアンの様子

図 2.1 佐藤健正『近代ニュータウンの系譜・理想都市像の変遷・』

図 2.2 佐藤健正『イギリス社会住宅の団地再生』

図 2.3 つくばセンター周辺の未利用地

図 2.4 ペDESTロリアン上の未利用空間

図 2.5 ベンチ・腰掛スペース

図 2.6 ある程度の広さのある芝地

図 2.7 道路脇スペース

図 2.8 道路間スペース

図 2.9 小広場

図 2.10 ペDESTロリアンを利用する目的

図 2.11 目的を通行かペDESTロリアンかに大別した場合のペDESTロリアンを利用する目的

図 2.12 利用者が考える、ペDESTロリアンに必要な役割

図 2.13 利用者が考える、現在のペDESTロリアンが果たしている役割

図 2.14 ペDESTロリアンに必要な役割と果たしている役割との差

図 2.15 利用者が、ペDESTロリアンにあったら嬉しいと思う設備

図 2.16 ペデカフェ要項の認知度

図 2.17 ペデカフェ要項を利用したいか

図 3.1 広場のイメージ 設置前

図 3.2 広場のイメージ 設置後

図 3.3 ベンチのイメージ 設置前

図 3.4 ベンチのイメージ 設置後

図 3.5 芝生のイメージ 設置前

図 3.6 芝生のイメージ 設置後

図 3.7 ペDESTロリアンのメディカルセンターからセンター広間までの範囲

図 3.8 松見公園西 広場

図 3.9 中央公園北 ベンチスペース

図 3.10 ペDESTロリアンのセンター広場から二の宮公園までの範囲

図 3.11 竹園公園前の広場

図 3.12 二の宮公園

図 3.13 ペデストリアンの二宮公園から赤塚公園までの範囲

図 3.14 洞峰公園のベンチ

第1章 序論

1.1 研究のフロー

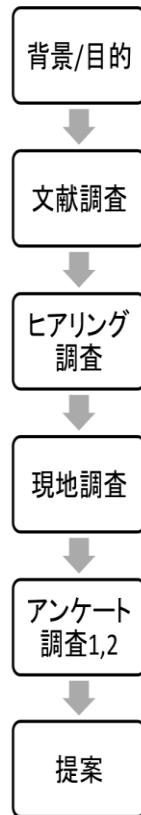


図 1.1：フローチャート

1.2 研究の背景・目的

つくば市は TX 沿線、特に研究学園エリア・つくばセンター周辺では分譲マンションや商業施設が数多く立ち並び、今後もさらに発達していくと考えられる。しかしそれは TX 沿線についてのみ言えることで、駅周辺を少し離れると人通りは少なくなり、閑散としていて今ひとつ賑わいに欠けている印象を受ける。

これはつくば市の魅力のひとつであり、つくば市役所の方からも「つくばの玄関口」とも称される、ペDESTリアンデッキについても同様のことが言えるように思われる。つくばのペDESTリアンは筑波大学から赤塚公園までの全長 4.8 k m で、「広い空間」、「緑の豊かさ」が特徴的である。「広い空間」に関してはつくばのペDESTリアンは横幅が最大 20 m で、それほど幅が広くとられたペDESTリアンは他にない。「緑の豊かさ」に関しては、ペDESTリアンの両脇に木々が連なっており、たくさんの公園とも隣接している。ペDESTリアンの一部であるつくばセンター広場では市役所の協力のもと、毎月 2,3 回「つくばセンターマルシェ」や年に 1,2 回「つくばフェスティバル」のような様々なイベントが行われ、市内・市外から学生や高齢者、ファミリーなど多くの人々が集まる。さらに Q't や Bivi のような近年できた商業施設とも隣接していて、年中多くの人々で活気にあふれている。し

かしセンター広場を離れるとペDESTロリアンで立ち止まる人はほとんどおらず、犬の散歩や通勤・通学のために利用している人がほとんどで、「歩行者専用道路」としての役割だけを果たしているように思われる。

そこで私たちの班ではそれらの空間を、つくばらしい特徴を最大限に活かした、少しでも多くの人に立ち寄ってもらえる魅力的な空間に変化させることはできないかと考えた。そしてそれを実現するために、ペDESTロリアン利用者や周辺住民の意見や評価を取り入れた、具体的な施設・用具の設置やパフォーマンスの実施の提案することを本研究の目的とする。



図 1.2 : つくばフェスティバルの様子
(2016 年 6 月 4 日撮影)



図 1.3 : 駅から少し離れたペDESTロリアンの様子
(2016 年 6 月 8 日撮影)

第2章 本論

2.1 既存研究

まず、我々はペDESTリアンの活用方法を探る中で、そもそもどのような意図で設計されているのかについて調べた。筑波大学による「筑波研究学園都市における定住過程に関する研究」(1982)という報告書によると、この都市は首都圏の過密化を緩和するために、一部研究機関を移転しようとしてある程度何もなかったところから出来た場所であり、それゆえ都市の構造をある程度は最初から決めることが出来た場所だった。研究機関の広さを最優先とした為、都市中心部に都市地区を形成し、その外側を民間住宅地、さらに外側を研究所及び教育機関、という都市構造になった。都市の区域はやや広く分散的だが、3本の大きな都市計画道路(土浦学園線、東大通り線、牛久学園線)及び元々あった道路を改良するなどして等高機能の幹線道路でそれらを結んでいくことにより補っていった。

ニュージャージー州 ラドバーン(1929ー)



図 2.1 佐藤健正『近代ニュータウンの系譜-理想都市像の変遷-』

(http://www.ichiura.co.jp/newtown/pdf/modern_nt/02.pdf) より

その中で、分断されてしまった各々の住区を、その内部で生活がある程度完結できるようにイギリスなどで行われていたワン・センター方式に近いものを採用した。この方式はセンターと呼ばれる中心地を作って公共施設や商業施設を配置する、というものののだが、この考え方の一つ前にあたるものとして近隣住区方式がある。近隣住区方式はワン・セン

ター方式でセンターにあった施設が区域の中で分散しているという点で異なり、佐藤健正の『近代ニュータウンの系譜-理想都市像の変遷-』によると、それを最初に採用してニュータウンとして設計された場所として、イギリスのスティブネジが挙げられる。そしてこの町が歩車分離のために採用しているものこそ、ペデストリアンであり、ラドバーン方式だ。

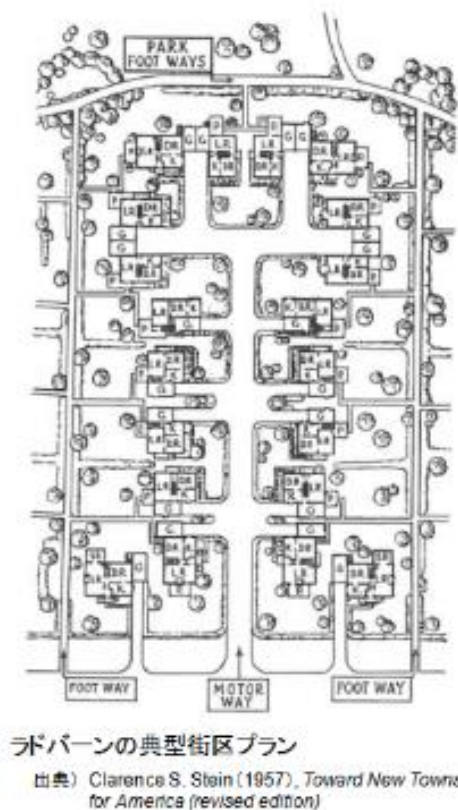


図 2.2 佐藤健正『イギリス社会住宅の団地再生』

(http://www.ichiura.co.jp/housing/pdf/e_saisei/a-02-5.pdf) より

佐藤健正による『イギリス社会住宅の団地再生』によると、ラドバーン方式では、纏まった住宅地と、それに隣接する幹線道路までの車道を危険でないものにする為に完全な歩車分離を目指して、ペデストリアンが発想された。各々の住宅ではペデストリアン側に入口があり、車の出入り口は袋小路となった車道に直接つながっていて、車道と歩道がほとんど交わることがない。近隣の公共施設へもそのペデストリアンで行けるようになっている。

この事をふまえてつくばをみると、多くの幹線道路により分断された各々の住宅地の中をペデストリアンが縦断し、その周囲の建物がペデストリアンに入り口を向け、ペデストリアンである程度生活のための買い物が出来るようになっている、など多くの共通点があり、このラドバーン方式をもとにペデストリアンを設計しただろうということは容易に想像され、そしてペデストリアンはラドバーン方式のままの目的であれば、歩車分離の

為だったということが分かる。

ここで一つ疑問が残る。ラドバーン方式ではペデストリアンは各住区の中にとどまっていたが、なぜつくばのペデストリアンは住宅街と住宅街を結びつけるほどにまで長くなってしまったのか。再び筑波大学による「筑波研究学園都市における定住過程に関する研究」（1982）によると、それはペデストリアンが歩車分離と同時に、住宅街と住宅街とを結びつけるための意味合いもあったからだ、とある。筑波研究学園都市の設計者はペデストリアンを歩いて他の住宅地へ、他の住区センターへ向かって欲しかったようだ。しかし車社会の到来により車の利用者は想定より増え、ペデストリアンの利用者は減り、入り口がペデストリアンを向いた住宅構造は生活の実態に沿わなくなってしまった。何より、長い距離を歩く人間が少なくなったためペデストリアンの住宅地と住宅地を繋ぐ、という目的が最早ともに達成できる状況ではなくなってしまった。

2.2 実態把握調査

2.2.1 つくばセンター周辺未利用地調査

<目的>

つくばセンター周辺に存在する未利用地がどのように分布しているのかを把握する。

<調査範囲>

東端：花室公園

西端：蓮沼公園

南端：赤塚公園

北端：筑波大学北端

<調査期間>

2016年4月26日～2016年5月1日

<調査方法>

班員が実際に調査範囲をまわり、未利用地の位置と分類をマッピングする。ここで、未利用地とは調査時点において土地利用されていない空間のことをさし、空き店舗など建物が建っていても未利用の空間であれば未利用地とする。

<結果>

以下に、調査の結果をGISでマッピングしたものを示す。調査した未利用地は、合計180箇所であった。また、つくばセンター周辺の未利用地は空き店舗、廃商店街、空き家、空き宿舎、空き地に分類されることが分かった。

まず、空き店舗は西大通りなど大通り沿いにいくつか分布している。空き店舗・廃商店街

については、竹園ショッピングセンターが現在シャッター街に近い状態で、空き店舗が多く存在する。そして、天久保地区でも廃店舗・商店街が目立っていた。空き家に関しては、私有地であり人が住んでいるかそうでないか外見だけでは判断しにくいということもあって、本調査ではほとんど発見できなかった。空き宿舎は、つくばセンター周りの廃止された公務員住宅のことを指す。この公務員住宅もつくばセンター周辺の景観を大きく崩すものであった。空き地は調査範囲全体に広く分布していたが、赤塚公園周辺など、住宅地の隙間に点在しているものが多くみられた。また、ペDESTリアンデッキについても、つくばセンターから離れると、街灯がなく人もほとんど通らないような空間になってしまっている様子が確認できた。



図 2-3 : つくばセンター周辺の未利用

2.2.2 ペDESTリアンの交通量調査

<目的>

ペDESTロリアンは本当に通行目的での利用が多いのかを知るために、交通量調査を行った。

<調査日時>

2016 年 6 月 8 日(水)14:20～14:50

<観測場所>

メディカルセンター病院・中央公園・大清水公園・二宮公園のペDESTロリアンデッキ上

<調査方法>

上に述べた 4 つの地点において、ペDESTロリアン利用者を、通行目的で利用した人と、施設利用など通行以外の目的で利用した人の 2 つに分け、それぞれの人数をカウントした。

<結果>

結果を以下の表に示す。2 つの表は、30 分で計測した利用者人数を 2 倍して、1 時間当たりの交通量になおしたものである。

表 2.1 ペDESTロリアンの年代別交通量

年代	通行目的以外	通行目的	年代別合計
～20代男性	4	138	232
～20代女性	0	90	
30～50代男性	4	220	504
30～50代女性	12	268	
60～男性	12	118	202
60～女性	4	68	
合計	36	902	938

表 2.2 ペDESTロリアンの場所別交通量

場所	通行目的以外	通行目的	場所別合計
メディカルセンター	0	446	446
大清水公園	2	260	262
中央公園	28	106	134
二宮公園	6	90	96
合計	36	902	938

2 つの表から、ペDESTロリアンはほとんどが通行目的で利用されていることが明らかである。表 1 からは、若年者層と高齢者層に関しては女性よりも男性の利用が多いことと、その中間の年齢層だと女性の利用が多いことが分かる。そして、表 2 からはメディカルセンター

の交通量が最も多く、二宮公園の交通量はメディカルセンターの 4 分の 1 以下であることが分かる。ここから、ペDESTロリアンでは駅の南側よりも北側の交通量が少ないということが推測できる。

また、調査を実施した日時が平日の午後であったことについて、ペDESTロリアンの利用者は 30～50 歳代の主婦が多かったのではないかとということ、仕事や学校がある 30～50 歳代の男性や学生の利用者は少なかったのではないかとということが考察できる。

2.2.3 ヒアリング調査

<目的>

- ・市の公共空間の活用実態の調査
- ・ペデカフェ要綱の詳細

<調査日時>

2016 年 5 月 26 日(金)

<対象>

つくば市役所まちなみ整備課

<質問内容>

- ・つくばペデカフェ推進要綱について

つくば市では、2016 年 6 月 1 日に市民とつくば市が協働で、地域の魅力づくりやにぎわいづくりを行う制度「つくばペデカフェ要項」が制定される。これにより、地域の団体がペDESTロリアンを利用しやすくなる。これまでに市は、この要項制定のために駅前のペDESTロリアンなどでオープンカフェなどの実証実験を行ってきた。

- ・実証実験の詳細、要項が制定されることによって何が変わるのか

これまでの実証実験は、紙媒体などで契約したうえで行われてきたものではなく、市民からは団体が市から許可されたものなのかどうか分からなかった。また、要項が公表されていなかったのも、公共空間を活用するのは、もともと知識がある団体に限られていた。

しかしながら、6 月から要項が公表されることによって団体が「市から認められた」ものとなる他、口約束よりもかたい契約となる。また、要項をまとめることで公共空間の活用に関してあまり知識がない人でも活用できるようになる。

市の役目は主に他課（交通課、警察署など）との交渉、調節。市と共同で行うことの利点は、手間のかかる様々な手続きを市が代行してくれる他、企画自体にアドバイスをくれることもある。

また、公式に要項が施行されるのは 6 月 1 日からであるが、本格的に始動するのはまつりつくば後の 8 月からであり、それまでは実証実験も並行して行っていくとのことであった。

- ・なぜ条例を作るに至ったのか

つくばは計画的に作られたまちだが、最近では土地や空間が国から民間に売却されてきている。そうすると、民間がビルや住宅を管理することになり、公共空間を考慮していない建築物の増加に繋がってくる。

また、最近ではつくば駅よりも研究学園駅の方が主流になってきており、つくば駅周辺の賑わいが失われつつある。これを、「つくばだけのもの」、すなわちつくばの特徴的なペDESTリアンデッキを活用することで魅力につなげていくことが要項の目的である。他にも、つくば市には「地元感」があるまつりが少ないこともきっかけのひとつ。

- ・実証実験を行ってきた結果と課題について

実験をはじめとするイベントは基本的に市民団体が主体で行っており、市はその支援をしている。

課題としては、まず電気や排水、配電盤などの設備が整っておらず、公共空間が活用に即していないことが挙げられる。

季節の問題としては、冬は風が強く、テントが飛ぶことがあった、夏は暑さによって日にイベントを行うことが困難なため、夕方から 3, 4 時間ほどしか企画が行えないことが多いなど。逆に、秋は最も企画が多くなる。

公共空間の地面は主に石でできているため、よごれがひどいことも問題である。油汚れは一度つくると清掃が困難であり、維持管理費の増加につながる。

音楽イベントなどは、内容によって近隣のマンションから苦情が来ることもある。この場合は、市から企画団体に対して騒音を引き起こすような楽器を控えめにすること、演奏時間の調整などを団体に指摘している。

ペDESTリアン上の建物は、一つ一つの距離が長いいため、特にイベント開催時にはどこに何があるかがわかりづらい他、ちょっとした移動にも時間がかかることも問題である。

また、公共空間を使用できるのは 9 時から 10 時までとなっているが、お酒がふるまわれるイベントにおいてはその後二次会として参加者が周りの飲み屋に行くといった二次効果が見られた。

- ・条例を制定するうえで、想定しているモデルケースはあるのか

つくばの魅力の向上につながるイベントや賑わいを創出するイベント全般を想定している。これについては企画書を市に提示し、市が判断する。逆に、市が支援しない企画は、デモ活動や犬猫の譲渡会など、賑わいを創出するとは考えづらいものである。

- ・「公共空間を考慮していない建築物」とは具体的に何を指すか

公共空間を考慮していない建築物、とは例えばペデのすぐ脇に設置されている駐車場や、入り口がペデ側ではなく、車道側にしかない建築物などのことを指す。もともとの意図として、ペデから様々な施設などに行けるように設計されていたが、このような建築物があるとペデが十分に活用できない。他にも、特に駅南においてはペデ付近に高層マンションが建てられており、近辺のペデが薄暗くなっている。

- ・公共空間の活用事例がつくばセンター周辺に限られているのはなぜか。

市の方がセンター周辺に限っているわけではない。ただ、センター周辺はつくばセンター地区活性化協議会も関わっている他、比較的配電盤などの設備が整っており、イベントを企画しやすいため、自然にセンター周辺にイベントが集中している。

- ・一般の空間を活用する時にどのような規制、制限があるのか。

これまで、公共空間は、「使いやすい」→「市民が自由に利用」→「規制など」→「使いづらくなってきた」という段階を踏んできた。今回の要項は、公共空間を「使えるようにする」ことが目的。規制、制限としては法律や住民感情が優先される。

つまり、要項に沿った企画だからと言って法律や住民感情などの規制が緩和されることなく、「やりづらいからやらない」状態から、市が、企画を法律、住民感情の範囲内で最大限に調整、アドバイスをしてやっていこうということ。

2.2.4 ペDESTリアンの未利用空間調査

<目的>

センター広場以外にもペDESTリアン上で活用できる空間がないかを探るために、未利用空間調査を行った。

<調査日時>

2016年5月30日

<調査範囲>

センター広場を除くメディカルセンター病院前から赤塚公園の間

<調査方法>

班員が実際に現地に出向き、ペDESTリアン上の未利用空間がどのような分類で、どのように分布しているのかの調査を行った。

＜結果＞

その結果、ペDESTロリアン上には未利用空間が比較的広い範囲に均等に分布しているということ、未利用空間が特徴によって「ベンチ・腰掛の空間」・「ある程度広さのある芝地」・「小広場」・「通路脇の空間」・「通路同士の間」と5つに分類できることが分かった。未利用空間のマッピングの結果と5つに分類された未利用空間の写真を以下に示す。

それぞれの分類ごとの箇所数は、ベンチ・腰掛スペースが7箇所、ある程度広さのある芝地が2箇所、道路脇スペースが2箇所、道路間スペースが3箇所、小広場が4箇所であった。

特徴としては、ベンチ・腰掛スペースと小広場はペDESTロリアン上に比較的広く分布、芝生は二の宮公園付近のみに2箇所、通路脇の空間・通路同士の間は竹園公園より南側に分布していることが分かった。

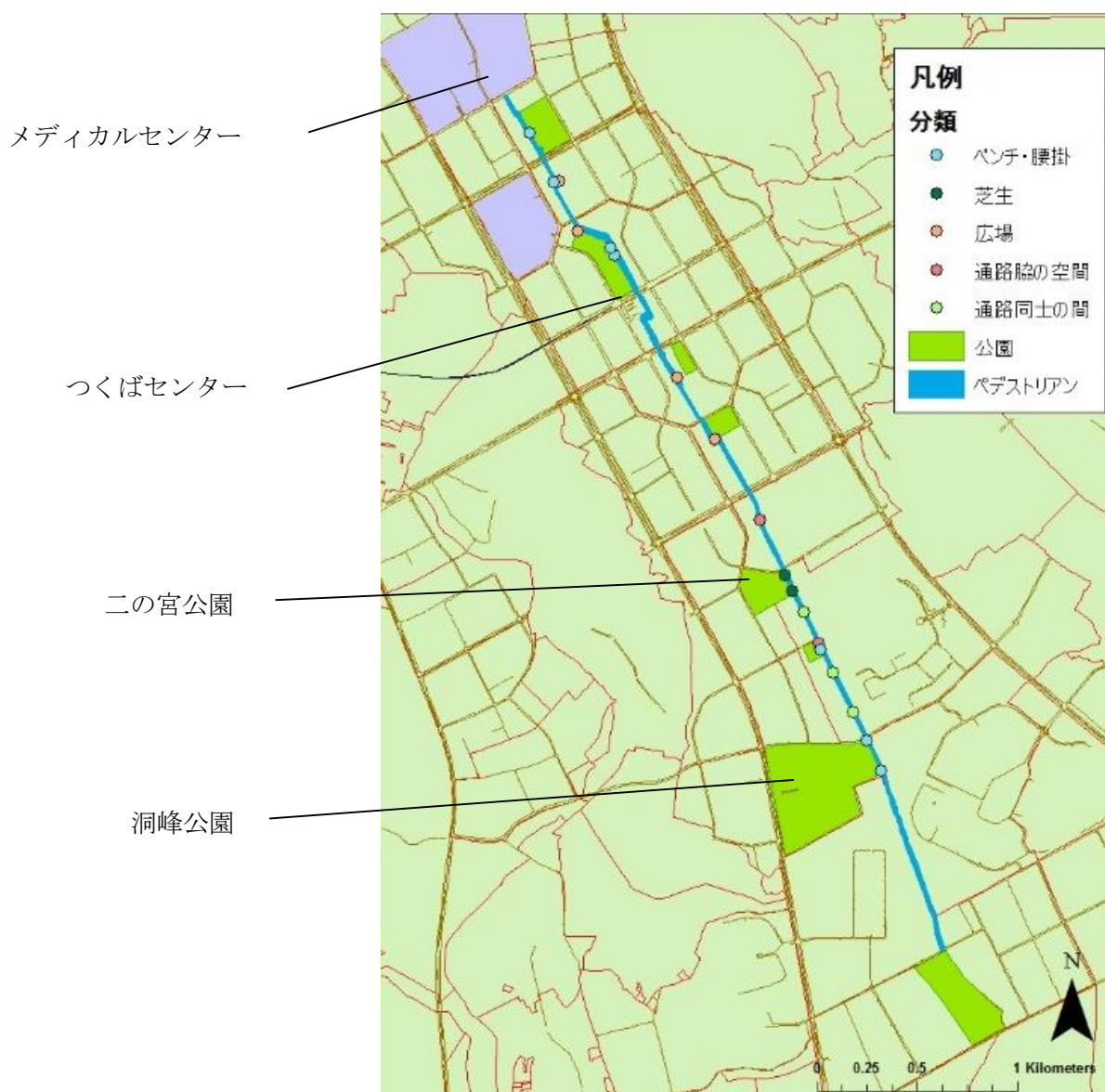


図 2.4 ペDESTロリアン上の未利用空間



図 2.5 ベンチ・腰掛スペース



図 2.6 ある程度の広さのある芝地



図 2.7 道路脇スペース



図 2.8 道路間スペース



図 2.9 小広場

2.3 アンケート調査

2.3.1 第一次アンケート調査

ここまで私たちは、現地調査、文献調査、そしてヒアリングなどの方法を用いて、ペDESTリアンの現状を調査してきた。そこで、実際には利用者が現在のペDESTリアンに対してどのような考えを持っているのか明らかにするためにアンケートによる街頭調査を行

った。街頭アンケートは、つくばフェスティバルが開催された 2016 年 6 月 4 日から 5 日に実施し、51 人（内 27 人はつくば市外在住）から回答を頂いた。

第一次アンケート調査では主に「ペDESTリアンの利用状況」、「ペDESTリアンの利用目的、持つべき役割、現在果たしている役割はなにか」といった質問を中心に行った。その結果をグラフで示したのが図 3－図 9 である。日常的にペDESTリアンを利用する人の 53.7%は商業目的で利用しており、その他の通学通勤や施設利用、散歩、休息などはいずれも 40%以下に留まっている。特に、休息を目的に利用する人は 7.4%である。これらを通学、通勤、商業を通行目的、それ以外をペDESTリアン自体が目的として大別すると図のようにその差が明らかとなり、このことから、回答者の大半がペDESTリアンを“通路”として利用していることが分かる。次に、「ペDESTリアンが持つべき役割」については、やはり「歩行者・自転車の通路」との回答が最も多いが、それ以外の 5 つの役割である「集まる」「休息」「運動」「自然」「イベント」もある程度必要とされているという結果が得られた。それに対して「ペDESTリアンが果たしている役割」では通路以外の役割はあまり果たされておらず、特に休息をとる場所としての役割を果たしていると答えたのは回答者の 32.5%に留まり、「必要な役割」と「果たされている役割」との間にギャップが生じていることが分かった。このことから、我々は「休息」という面に注目してペDESTリアンの新たな活用法を検討していくことにした。なお、イベントに関しても休息と近い数字が出ているが、ペDESTリアンのイベントによる活性化は過去の実習のテーマとして扱っているため、我々の研究では、イベントに関しては新規性のある後述のペデカフェ要項についてのみ扱うこととした。

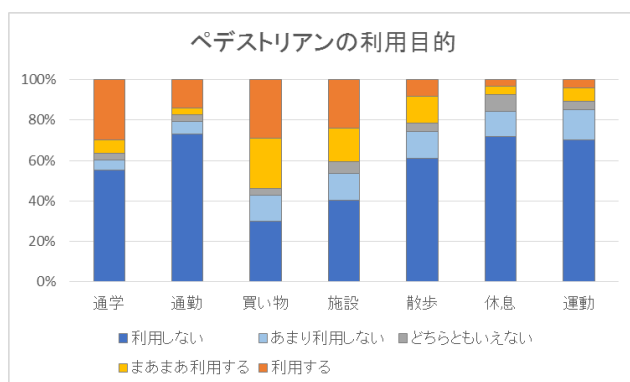


図 2.10 ペDESTリアンを利用する目的

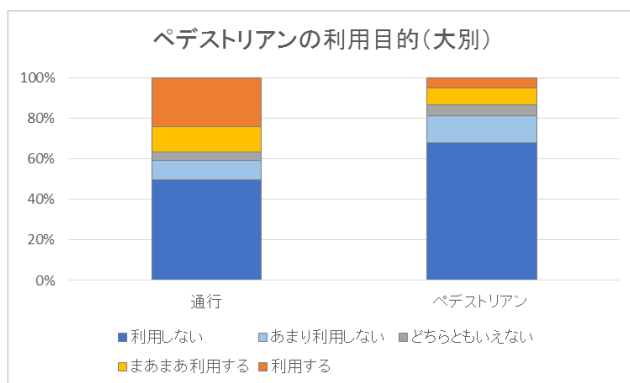


図 2.11 目的を通行かペDESTリアンかに大別した場合のペDESTリアンを利用する目的

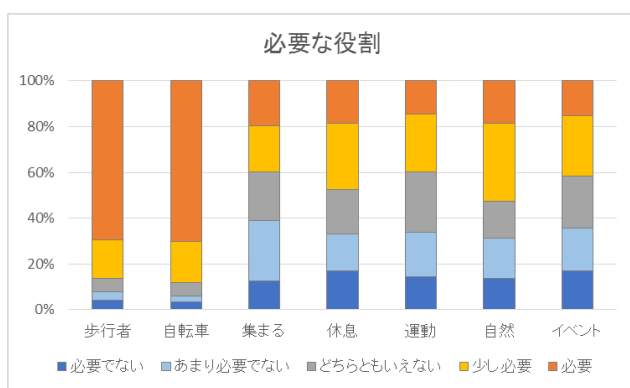


図 2.12 利用者が考える、ペDESTリアンに必要な役割

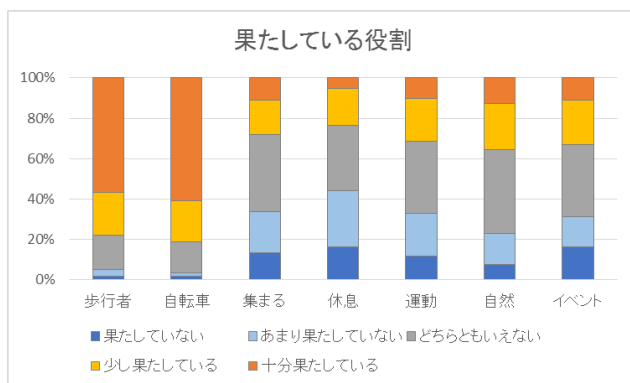


図 2.13 利用者が考える、現在のペDESTリアンが果たしている役割

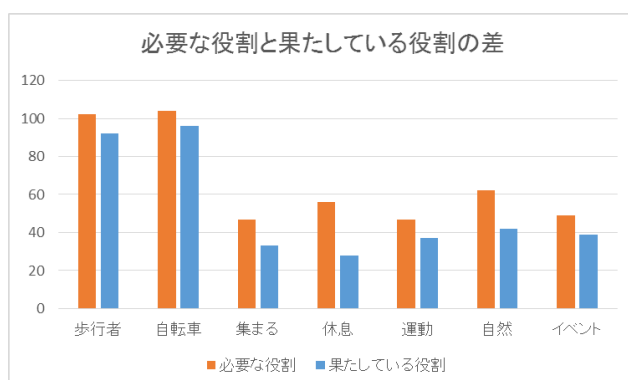


図 2.14 ペデストリアンに必要な役割と果たしている役割との差

3.2 第二次アンケート調査

最後に私たちは、ペデストリアンデッキの現状を探るための第一次アンケートを踏まえ、最終的に新しいペデストリアンの具体的な姿を提案するために、第一次アンケートの内容に加え、最終的な提案として事前のディスカッションで候補に挙げた具体的な場所やイメージ図を示しながら、「どこにどのような設備がほしいか」や、ペデストリアンの有効活用を目的とし、6月から新たに施行された「ペデカフェ要項」に関する質問を中心にさらなるアンケート調査を行った。アンケートは、地域環境科学概論の受講者、サークル団体である E. L. L. と Doo-Wop、ペデストリアンの利用者、そして社会福祉協議会に対して実施し、合計 122 部の回答を得た。サークル団体の二つは、実際にペデストリアンでパフォーマンスを行うことができる可能性がある音楽サークルとして、社会福祉協議会は回答者の母数の確保と幅広い年齢層からの回答を目的としている。また、ペデストリアンの利用者に関しては西武百貨店とクレオスクエアの間のペデストリアンにて街頭調査を行った。あったら嬉しいと思う設備はデッキチェアが 59.3%、路上パフォーマンスは 34.2%、水遊び場が 40.7%、足湯が 38.1%と高い値を示し、需要がある設備であることが分かった。また、「設備が必要ない」と回答した人の割合がそれぞれ 26.8%、41.2%であった道路脇の空間、通路同士の間の空間は新たな設備の需要がないことが分かった。これの主な理由としては、「通行の妨げになるから」との回答が多かった。また、こちらが提示したペデストリアンの役割の中で必要だと回答した人数に対する、果たされていると回答した人数の割合は、歩行 90%、自転車 92%、集まる 70%、休息 50%、運動 79%、自然 68%、イベント 80%と休息だけ特に低い値を示し、第一次アンケートと同様にペデストリアンに休息の要素が足りないとの結果がでた。ペデカフェ要項については、要綱自体が施行されたばかりということもあり、認知度は 6%と低い数値を出していることから、今後周知をしていく必要がある。一方、ペデカフェ要項の存在を知った上で、今後利用したいと考えている人は一定数見られたため、周知次第では今後利用活用されていく可能性はあると考えられる。また、サークル団体に行ったアンケートの中で、「実際にパフォーマンスを行いたいのか」という質問をしたところ、およそ半々に分かれる結果となったが、パフォーマンスを行いたくない理由として「通行

の邪魔になるから」「パフォーマンスを行っても立ち止まってもらえなさそう」との声があった。このことから、パフォーマンスを行う場所を検討する際は、歩行者や自転車の通行の邪魔にならないよう、動線やスケール感を計算して提案する場所を検討する必要があると考えられる。

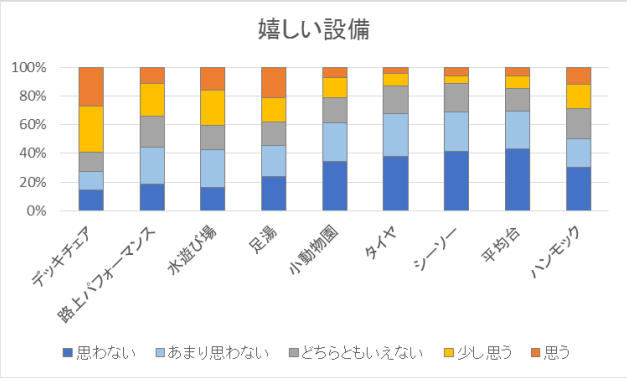


図 2.15 利用者が、ペDESTリアンにあったら嬉しいと思う設備

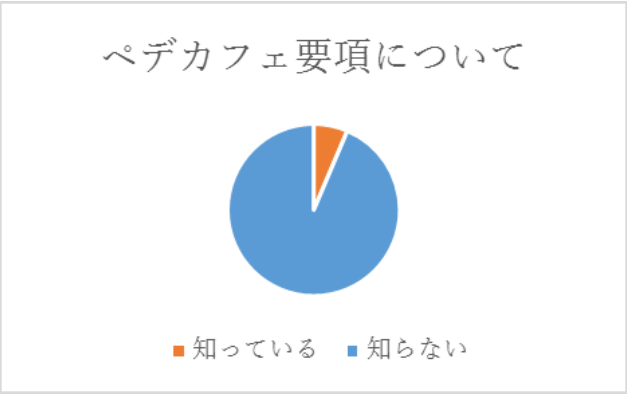


図 2.16 ペデカフェ要項の認知度

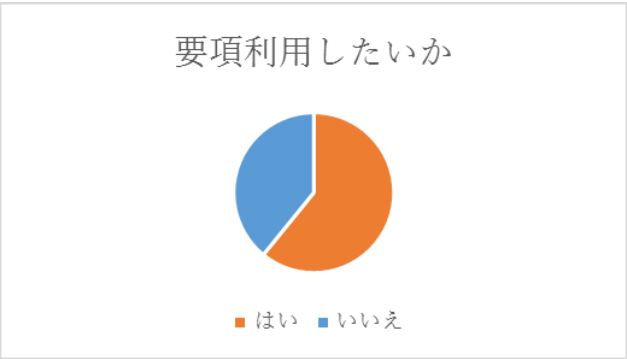


図 2.17 ペデカフェ要項を利用したいか

第3章 提案

3.1 提案の概要

これまでの調査から、つくばのペDESTロリアンは当初の設計意図通り、多くが通行目的で利用されていることがわかった。しかし、実地調査・アンケート調査でもわかるように、ペDESTロリアンにはまだまだ未利用空間・機能も多い。そして、ペDESTロリアンの利用者はリラックスできる空間が欲しいという調査結果が得られた。以上のことから、私たちは「別荘地のようなペデ」・「寄り道したくなるようなペデ」を目指して、「広場」と「ベンチ・腰掛の空間」を中心に、日常とは離れた、時間がゆっくり流れるような空間の創出を目指すこととした。

具体的に次のように提案する。広場には子供たちが遊べるような水遊び場を置き、路上パフォーマンスを行うことで、つい足を運びたくなるような空間とする。週末になると何らかの団体がペDESTロリアン上の複数の空間でライブ告知を兼ねた小規模なパフォーマンスを行い、通行者が子供の遊び声や歌などの音に惹かれて少し立ち寄るような空間が創造できる。また、ベンチ・腰掛の空間には足湯を設置し、ゆったり休憩しながら自然と人々の交流やそれによる賑わいが生まれるような空間をつくる。それぞれの場所にはデッキチェアを置き、水場や公園施設で遊んでいる子供を見守りながら、パフォーマンスを眺めながら、別荘地のようにペDESTロリアンを味わえるようにする。なお、以下にあげる図は全て2016年6月8日撮影である。

＜広場のイメージ＞



図 3.1 設置前



図 3.2 設置後

<ベンチのイメージ>

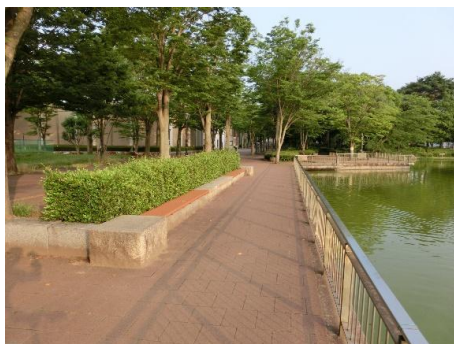


図 3.3 設置前

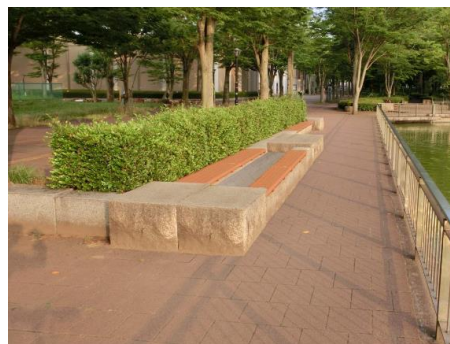
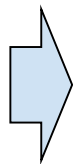


図 3.4 設置後

<芝生のイメージ>



図 3.5 設置前



図 3.6 設置後

3.2 具体的な提案

以下はペデストリアン上のどこに各設備を配置するかを平面プランとして示したものである。プランを示す便宜上以下の3区間に分けて、提案を行う。

1. メディカルセンター～センター広場まで
2. センター広場～二の宮公園まで
3. 二の宮公園～赤塚公園まで

3.2.1 メディカルセンターからセンター広場まで



図 3.7

図 3.8

図 3.7 ペDESTリアンのメディカルセンターからセンター広場までの範囲



図 3.8 松見公園西 広場



図 3.9 中央公園北 ベンチスペース

図 3.8 は、松見公園に面した広場であり、少し小さめの広場であるため、少人数の演奏会やアカペラなどの小規模なパフォーマンスを行う空間が想定できる。また、図 3.9 は中央公園の北部に位置しているベンチスペースであるため、公園や周辺のつくばエキスポセンターなどで遊び疲れた親や子供が休息する場所として足湯の設置がニーズから考えると適していると考えられる。

3.2.2 センター広場から二の宮公園まで

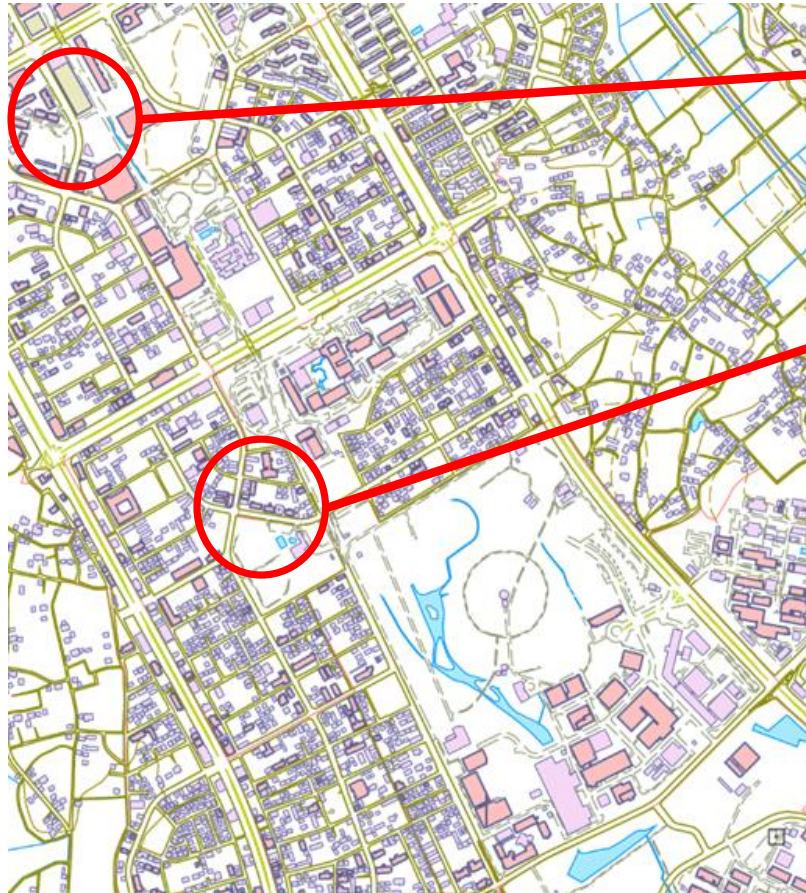


図 3.11

図 3.12

図 10 ペDESTリアンのセンター広場から二の宮公園までの範囲



図 3.11 竹園公園近くの広場



図 3.12 二宮公園

赤い丸で囲った場所は上2つ(図 3.11、図 3.12)が広場の空間、公園(図 3.12)は芝生の空間である。具体的な提案としては、利用者にどこに何が欲しいのかを調査した2次アン

ケート調査の結果より図 3.11、図 3.12 では路上パフォーマンス、図 3.12 の芝生の空間ではデッキチェアを配置することを挙げる。

図 3.9 はつくばカピオのすぐそばで、センターにも近い。図 3.10 はエポカルつくば（つくば国際会議場）の近く。児童館や小学校もペDESTリアンに面しているため、子供向けのヒーローショーや手品などの路上パフォーマンスも効果的だと考える。図 3.11 は二宮公園内の芝生スペースであり、老若男女がくつろげるデッキチェアが設置されることが望ましい。

3.2.3 二の宮公園から赤塚公園まで



図 3.14

図 3.13 ペDESTリアンの二宮公園から赤塚公園までの範囲



図 3.14 洞峰公園のベンチ

図 3.14 のように洞峰公園に隣接するペDESTロリアンデッキでは使用されていないようなベンチや休憩スペースがあり、デッキチェアや水遊び場に利用できるのではないだろうか。

また、黄緑色の線で表した空間は道路と道路の間に未利用空間があるが通路幅が狭く、アンケート結果も考慮して今回利用提案は難しいと判断した。

3.3 考察

広場の空間について水遊び場は過去にも大清水公園に存在したが、近辺にマンションができたことで日陰になり、廃止されてしまった事例があるため、立地を検討すればペDESTロリアンに復活させることも不可能ではない。しかしながら、ヒアリング調査でも明らかにしたようにセンター広場以外の部分では水道設備が十分ではないことから、どこであれば水遊び場が実現できるかについてはさらに調査を進めていく必要がある。また、パフォーマンスについては月に一回程度の頻度で行いたいと答える人が多いためペDESTロリアンデッキを「寄り道したくなるようなペデ」にするためにはより活発にパフォーマンスを行い、パフォーマンスが行われるペDESTロリアンデッキを日常にする必要がある。また、「通行の妨げになる」として現時点ではパフォーマンスを行わないとする意見もあるため未利用空間の認知も必要である。

さらに大きな問題としてこの程度の規模のイベント、規模の団体では前述の「ペデカフェ要綱」は適用できず、パフォーマンスをしたいと思うたびに自力で市や警察と各種の手続きを行わなければならないので現状小規模のパフォーマンスを行うことで寄り道したくなるようなペDESTロリアンにするのは現段階では難しいが、ペデカフェ要項が施行され、公共空間活用の活性化が促されていることは実現可能性を高めたと考えられる。

次に、ベンチ・腰掛の空間だが、デッキチェアやハンモックは十分に実現が可能である。さらに、屋根のついた半屋外空間とすることで、管理が比較的容易となる。しかし、やはり誰がどのように管理するかは検討する必要がある。足湯はおそらく私たちの提案の中でも実現可能性が最も低いものであろう。コストはもちろんのこと、その水源も大きな問題

である。つくばは温泉が湧いているわけでもなく、ペDESTロリアン上にも電源やガス設備が整っていないため、安定して温水を提供することが困難である。代替案としては、夏季に限定されるが、冷水を活用した「足水」の提案が考えられる。

以上の考察から、今後の課題として『①コスト面での資産が不十分であること』『②実際に提案を実施した際の利用状況ができていないこと』があげられる。①に関しては、実現可能性を考えるとときに重要となるので専門的な見積もりが必要とされる。②については実証実験を行い、実際にペDESTロリアン利用者からフィードバックをもらう必要がある。

参考文献

- ・つくば市役所ホームページ (<http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/>)
- ・つくば建築フォトファイル (NPO 法人つくば建築研究会)
- ・『歩行者空間の計画と運営』(R・ブランビラ G・ロンゴ共著)
- ・『近代ニュータウンの系譜-理想都市像の変遷-』佐藤健正、p.37-62s
(http://www.ichiura.co.jp/newtown/pdf/modern_nt/02.pdf)
- ・『イギリス社会住宅の団地再生』佐藤健正、p.37-75
(http://www.ichiura.co.jp/housing/pdf/e_saisei/a-02-5.pdf)
- ・『香港セントラル地区を中心に広がるペDESTリアンデッキネットワークの形成プロセスに関する研究』 木下光、西家陽一、日本建築学会計画系論文集 第 79 巻 第 705 号 2014 年 (https://www.jstage.jst.go.jp/article/aija/79/705/79_2479/_pdf)
- ・『大崎駅周辺の再開発におけるペDESTリアンデッキの形成と管理について』 大口剛由、石塚哲也、越澤明、坂井文 日本建築学会技術報告書、第 17 巻 第 37 号 2011 年
(https://www.jstage.jst.go.jp/article/aijt/17/37/17_37_1009/_pdf)
- ・『利用者意識を考慮した駅前ペDESTリアンデッキのあり方に関する研究』 中尾成政、浅野光行、土木学会第 26 回土木計画学研究発表会、2002 年
(https://www.jsce.or.jp/library/open/proc/maglist2/00039/200211_no26/pdf/25.pdf)
- ・『ペDESTリアンデッキ上における路上パフォーマンスに関する考察—北千住・松戸・柏駅を対象として—』 小峰祐太、早稲田大学創造理工学部 社会環境工学科 建築工学専攻 佐々木葉研究室 卒業研究、2011 年
(<http://www.waseda.jp/sem-yoh/temp/08/10komine.pdf>)
- ・『シドニー都市圏のペDESTリアンモールに関する研究』 安藤徹哉、小野啓子、日本建築学会計画系論文集第 553 号 p.239-246、2002 年
(<http://okinawa-repo.lib.u-ryukyu.ac.jp:8080/bitstream/okinawa/9564/1/No553p239.pdf>)

(インターネット上の資料はすべて 2016 年 6 月 22 日最終閲覧)

謝辞

本実習を進めるにあたり多くの方々にご協力をいただきました。心から感謝いたします。

ヒアリング調査にご協力いただいた方々

筑波都市整備株式会社 営業部次長 木村 芳之 様
筑波都市整備株式会社 営業部営業課 作田 淳 様
つくば市環境生活部環境課主任惨事兼課長 木本 美昭 様
つくば市環境生活部環境課環境衛生係係長 臼井 敏
つくば市建設部空き家対策室室長 白井 稔 様
つくば市建設部空き家対策室主査 石濱 浩司 様
つくば市建設部空き家対策室主事 荒木 航 様
つくば市環境生活部環境課環境衛生係主事 高橋 孝生 様
つくば市企画部まちなみ整備課土地調整係 島田 陽介 様

アンケート調査にご協力いただいた方々

筑波大学 学生の皆様
街頭調査に協力して下さった皆様
社会福祉協議会の皆様

また、成果をまとめるにあたり的確なご指導とアドバイスをくださった吉野教授に班一同感謝しております。ありがとうございました。

平成 28 年度 生活環境安全班一同

補足資料

アンケート用紙

ペDESTリアンの利用状況に関するアンケート

筑波大学 理工学群社会工学類 都市計画実習 生活安全環境班

我々は筑波大学での講義「都市計画実習」の課題のため、「つくばの公共空間の有効活用」を研究テーマとして活動しています。本アンケートはペDESTリアンの利用状況に関するアンケートです。お忙しいところ大変恐縮ですが、ご協力いただければ幸いです。

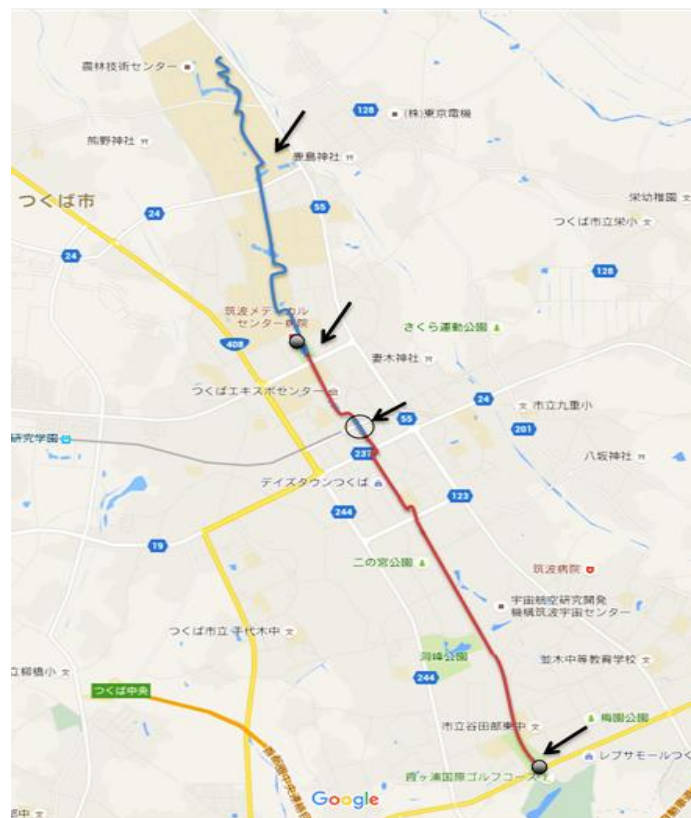
このアンケートの回答結果は課題の目的以外に使われることはなく、全て統計的に処理され、個人が特定されるようなことはありません。

よろしくお願い申し上げます。

1. つくばのペDESTリアンデッキについてお伺いします。

ペDESTリアンデッキ」（以下ペDESTリアン）とは筑波大学からつくば市赤塚公園まで学園都市中心部を南北に縦貫する歩行者専用道路のことです。

なお、本研究ではつくばセンター広場を除外した、メディカルセンターから赤塚公園の区間を対象にしており、以下の質問中における「ペDESTリアン」とはこの区間のみを指します。



1-1. ペDESTロリアンの印象についてお聞きします。以下の項目それぞれについてどの程度あてはまりますか。（それぞれ1つに○）

あてはまらない	あまり あてはまらない	どちらとも 言えない	少し あてはまる	あてはまる
人通りが多い	1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5			
明るい雰囲気	1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5			
賑わっている	1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5			

1-2. あなたは、週に平均何日くらいペDESTロリアンを利用しますか。（1つに○）

1. 月1日未満 2. 月1～2日 3. 週1～2日
4. 週3～5日 5. 週5日以上

1-3. あなたは、何時頃ペDESTロリアンを利用しますか。（1つに○）

<曜日>（1つに○）

1. 平日 2. 休日 3. 両方

<利用時間>（あてはまるもの全てに○）

1. 5～10時 2. 10～14時 3. 14～18時
4. 18～22時 5. 22～26時

1-4. ペDESTロリアンを、なにをするためにどの程度利用しますか。（それぞれ一つに○）

利用しない	あまり 利用しない	どちらとも 言えない	少し 利用する	利用する
-------	--------------	---------------	------------	------

通学	1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
通勤（アルバイト含む）	1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
ショッピング（商業施設）	1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
施設利用（サービス利用）	1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
散歩・ジョギング	1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
休息を得るため	1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
体を動かすため	1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
（ジョギングなどを除く）	

1-5. 1-4 で挙げた項目以外になにかあれば記述してください。

その他 ()

必要ではない	あまり 必要でない	どちらとも いえない	少し必要	必要
--------	--------------	---------------	------	----

1-6. あなたがペDESTリアンに必要なと思う役割はなんですか。(それぞれ一つに○)

歩行者の通り道	1	2	3	4	5
自転車の通り道	1	2	3	4	5
みんなが集まれる場所	1	2	3	4	5
休息場所	1	2	3	4	5
体を動かせる場所	1	2	3	4	5
自然に触れられる場所	1	2	3	4	5
イベントスペース	1	2	3	4	5

1-7. 現在のペDESTリアンが以下の役割をどれくらい果たしていると思いますか。(それぞれ一つに○)

果たしていない	あまり 果たしていない	どちらとも いえない	少し 果たしている	果たしている
---------	----------------	---------------	--------------	--------

歩行者の通り道	1	2	3	4	5
自転車の通り道	1	2	3	4	5
みんなが集まれる場所	1	2	3	4	5
休息場所	1	2	3	4	5
体を動かせる場所	1	2	3	4	5
自然に触れられる場所	1	2	3	4	5
イベントスペース	1	2	3	4	5

1-8. ペDESTロリアンが以下の様な空間になる場合ペDESTロリアンの利用頻度は増えますか？

(それぞれ一つに○)

利用しない	あまり 利用しない	どちらとも 言えない	少し 利用する	利用する
-------	--------------	---------------	------------	------

歩くだけで楽しい空間 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 自然と会話が生まれる空間 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 子供が遊べる空間 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 親が子供を見守れる空間 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 のんびりできる空間 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 木漏れ日を感じられる空間 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

1-9. 以下に挙げる設備がペDESTロリアンにあった場合、ペDESTロリアンをどの程度利用しますか？

(それぞれ一つに○)

利用しない	あまり 利用しない	どちらとも 言えない	少し 利用する	利用する
-------	--------------	---------------	------------	------

デッキチェア 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 路上パフォーマンス 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 水遊び場 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 足湯 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 小動物園 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 タイヤ 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 シーソー 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 平均台 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5
 ハンモック 1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

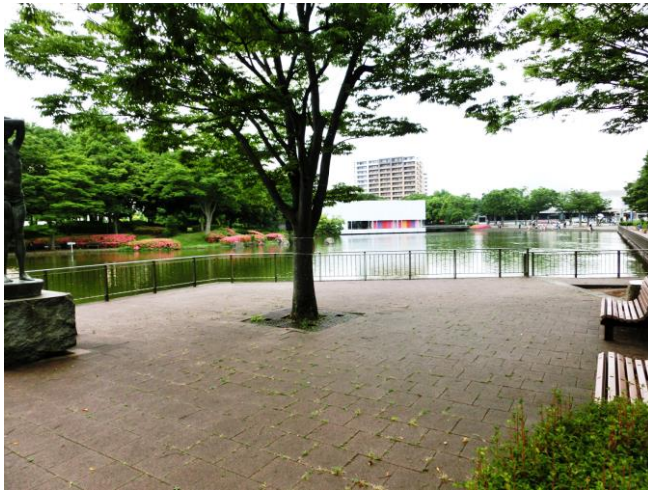
1-10. ペDESTロリアンデッキ上の空間を次のように分けます。

- ①ベンチ・腰掛スペース ②芝生 ③広場
④道路脇スペース ⑤通路間スペース

これらの空間に以下のA～Jの設備を置くとしたら、どの空間にどの設備があると、ペDESTロリアンデッキをより利用したいと思いますか。

(それぞれの空間についてあてはまるものを全て選択)

- A. デッキチェア B. 路上パフォーマンス C. 水遊び場 D. 足湯
E. 小動物園 F. タイヤ G. シーソー H. 平均台
I. ハンモック J. その他 K. 設置する必要はない



①ベンチ・腰掛スペース



②芝生



③広場



④道路脇スペース



⑤通路間スペース

2. 音楽やダンスなど表現活動を行うみなさまにお聞きます。

ただし、つくばセンター広場以外のペDESTリアンデッキにおいては電源設備やスペースの問題があるため「路上パフォーマンス」とは個人での弾き語り、アカペラバンドのマイクなしの演奏、大音量の音楽を伴わないダンスパフォーマンスなどの小規模なものとします。

2-1 ペDESTリアンにおいて路上パフォーマンスをあなたの所属している団体もしくは個人で実際に行いたいと思いますか。(1つに○)

1. はい 2. いいえ

2-1 で行いたいと答えた方にお聞きます。

2-2 行いたい頻度を次の中から選んでください。(1つに○)

1. ほぼ毎日 2. 2, 3日に一回 3. 週に一回 4. 月に一回
5. その他 ()

2-3 何を行いたいのか具体的にお書きください

()

2-4 ペDESTリアンデッキ上の空間を次のように分けるとすると、パフォーナンス
を行いたい場所は次の内何処ですか？（あてはあるものすべてに○）

①ベンチ・腰掛スペース



②芝生



③広場



④くぼみ



⑤通路間スペース



2-1 で行いたくないと答えた方にお聞きします。

2-5 その理由を差支えのない範囲でお書きください。

（ ）

3. 以下はあなたについてお聞きします。差し障りのない範囲でお答えください。

2-1. あなたの性別をお答えください。

1. 女性 2. 男性

2-2. あなたの学類と学年をお答えください。

() 学類 () 年

2-3. お住まいの市区町村をお答えください。

1. つくば市内 _____ (地区) (例：天久保、竹園など)
2. つくば市外 _____ (都・道・府・県) _____ (市・区・町)

2-4. あなたが普段最も利用する交通手段にあてはまるものに丸を付けてください。

1. 電車 2. バス 3. 自動車・バイク
4. 自転車 5. 徒歩 6. その他 ()

質問は以上です。御協力有難うございました。